

STENTBOOST 機能が StentFracture の検出と治療方針決定に有用であった症例

¹北海道循環器病院

北 裕一¹、二木 克明¹、菅原 宏昌¹、鈴木 正俊¹、堀田 大介¹、山本 匡¹

【目的】薬剤溶出型ステント (DES) のプラットフォーム素材の変更とストラット厚が薄くなることにより従来型 DES に比較して心臓カテーテル検査 CAG に於いて StentFracture (SF) の検出能力が低下している傾向にある。冠動脈 CT、血管内超音波装置 IVUS による同定方法も知られているが、それでも検出困難な症例が存在し、当院にて PHILIPS 社製の PCI 支援アプリケーションである STENTBOOST 機能が有用であった 2 症例を経験したので報告する。【方法】右冠動脈屈曲部と前下行枝 segment7 の屈曲部は SF の好発部位として知られている。今回 SF の疑われる症例に対し STENTBOOST 機能を使用し治療前に破損したステントを撮影し、ステント留置後にも同様に撮影した。【結果】In stent restenosis (ISR) に対し stent-in-stent と POBA の治療法があるが、SF がある場合にはステントリコイルの影響などから stent-in-stent が良いとされている。今回 CAG では検出不能であった SF を STENTBOOST 機能の使用で検出することが出来、治療方針を決定することが出来た。【結論】STENTBOOST 機能は SF を検出することが出来、治療方針決定に有用であった。この機能は簡便に使用することが可能で画像構築が即時に行え、オペレーターの手技を止めることなく使用することが出来る。冠動脈 CT、IVUS で SF が検出されない症例でも検出することが出来たので、今後 SF が疑われる症例でルーチンに使用すべきと考える。STENTBOOST 機能の使用により SF の検出のみならず Stent の over lap や分岐部病変における wire の通過部位の同定などに使用出来る可能性がある。